

## — 卷頭言 — “J-TRECの海外展開とsustina”



専務取締役  
滝田 晴之

J-TREC初の海外向け新造車両「タイ・バンコク パープルライン向け車両」63両が出荷され、2016年8月には営業運転に投入される予定です。

タイ・バンコクにおいて日本製車両が持つ高い信頼性・安全性・安定性によって、御利用頂く方々に永く愛され続けることを願ってやみません。

我々にとって、海外向け新造車両輸出は、東急車輛製造(株)から数えても、すでに10年以上の年月が過ぎており、設計段階から車両完成まで試行錯誤や多大な困難の連続でしたが、全社一丸となって出荷にこぎつけることができました。御苦勞された方々に対し、心から感謝申し上げます。

過去には、アイルランド国鉄殿向け車両として、電車・気動車合計105両を出荷しておりましたが、ヨーロッパ規格にすべて準拠した車両は、今回のパープルライン向け車両が初めての経験となりました。そして、この車両が、記念すべき海外向けsustina車両の第1号となります。

J-TREC発足10年後には、このような会社になろうという目標を述べた「Tomorrow 2020」という中・長期事業計画が策定されております。この中には、J-TRECの売上の4割を海外事業で担うという目標が掲げられており、その目標達成に向け、組織体制を強化する一環として、海外事業本部がJ-TRECの第4の本部として設立されました。まだまだ、海外事業は始まったばかりではありますが、種をまき、育て、実を刈り取り収穫していくためには、社員の皆様や協力会社の皆様とともにこれからますます多くの困難や苦勞に立ち向かっていかなければなりません。パープルライン案件を通じて、苦勞して学んだRAMS、V&Vシステム（要求事項に対して、いかにして要求を満足させようとするのか（Verification）、要求事項が満足できる結果となっているかを検証する（Validation）ことをシステム立てて系統化する）やPaper Trainという概念および溶接作業における要求事項等等、実務を通じて学んだ貴重な経験を、今後の海外向けsustina車両に生かしていくこととなります。

JR東日本グループのJ-TRECとなったことにより、今まで我々では持っていなかった日本が世界に誇れるメンテナンスやオペレーションの分野での豊富な経験・ノウハウを新たな武器として加えることができるようになってきています。sustinaをさらにブラッシュアップすることによって世界戦略車を創りだすとともに、メンテナンス・オペレーション分野での知見・ノウハウを組み合わせ、世界中各地にsustinaを走らせるという夢を、一步一步現実のものとするように、皆様と歩んでまいりたいと思います。